

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401657		
法人名	有限会社DARIYA		
事業所名	愛の家グループホーム札幌星置 1階		
所在地	札幌市手稲区星置3条9丁目8-11		
自己評価作成日	平成23年2月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の穏やかな生活を最優先に、日常をサポートさせていただいています。地域との関わりを目指して、将来的には回覧板へ通信を載せるなど、目指しています。現在はご家族様に向けより開放的なホームを目指し、ホームでの日常を伝えたり、どんなスタッフが勤務しているかを伝えたりしています。クリスマス会や敬老会には沢山の地域の方が参加されます。ホームからも町内会のイベントには積極的に参加させていただいています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401657&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401657&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<認知症への理解と広報及び地域との連携>**  
 地域や町内会の人達に認知症について、理解を得る為に「認知症ケア講座」や「認知症予防講座」を開催し、事業所の持つ専門性を活かして広報に取り組んでいる。また、「絵手紙の会」や「子育てサロン」で地元の人々や子供達との交流、近隣の養護学校や中学校の発表会に出かけたり、地域のボランティアの受け入れ、緊急時の避難訓練の参加呼びかけ等地域との交流・連携に努めている。

**<ケアサービスの質の向上を目指した取り組み>**  
 法人の事例研究全国発表会で、事業所の取り組みや利用者のかかわりで具体的な身体機能の改善事例等の発表や独自の「ご家族アンケート」を実施し、顧客満足度調査を行い、結果及び改善活動を公表してサービスの質の向上に取り組んでいる。また、職員の資格取得への奨励と支援が行われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の3つの理念とホーム独自の理念さらにユニットの理念を作り取り組んでいる。	事業所独自の理念及びユニット毎の理念をつくりあげ、その実践の為に職員一人ひとりの具体的な目標を掲げ、家族・来訪者等に分かるように広報している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事の参加や、町内会会館の利用、認知症ケア講座の開催を行っています。	地域や町内会の人達に認知症について、理解を得る為に「認知症ケア講座」や「認知症予防講座」を開催し、事業所の持つ専門性を活かして広報に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の随時受け入れや、認知症予防講座の開催を行っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括支援センター職員に話しを伺い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、緊急時の避難訓練や事故・リスク管理等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との情報の交換を行っている。市が行っている研修に参加している。	市担当者や包括支援センター職員とは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りでの情報共有と、身体拘束となる事項の冊子の観覧を行っている、施錠は行っていない。	管理者及び全ての職員は、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、内部研修を通じて共有に努めている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加、防止マニュアルや冊子の回覧を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修などで学び活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け、納得されるまで説明をしている。疑問がある場合はいつでも受け答えできる体制を設けている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはすすんで話しかけたり、電話連絡等話しやすい状況を作っている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付や相談窓口の掲示をしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個別に接見を行い意見を聞いている。	ユニット会議での話し合いや職員アンケートの実施で意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得の支援制度がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やスタッフ間での話し合いで、学べる現場になっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで他施設職員との交流を行っている。また、近くの施設との交流を行いお互いの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時の面談で要望を伺っている、又ホームの中でも要望を伺っている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時の面談で要望を伺っている。又、ホームでの生活が始まってから連絡をとり伺っている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を伺ったり、ホームの状況を見て頂いて、必要な支援を行っている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出かけたり何かを一緒に行ったりしている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を伝えたり、行事にお誘いし一緒に楽しんでいただいている。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時などスタッフより話しかけ再び来ていただけるような雰囲気作りをしています。	「絵手紙の会」や「子育てサロン」で地元の人々や子供達との交流、近隣の養護学校や中学校の発表会に出かけるなど馴染みの人との交流や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入って話しをしたり一緒に作業をし関わりを持って頂いています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者は現在いないが対応できる体制は整っている。			
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に話を聞いて、把握に努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺ったり、利用していた病院などから、情報を頂いたり、利用施設に聞き取りに行っている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで見守りを把握できるようにしている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と共にケアプランの作成、モニタリング、カンファレンスを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、家族がカンファレンスやモニタリングに参加して、介護計画に意見・要望を反映している。また、職員の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実践を記録、反応などの情報を共有し、見直し等行っている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を伺い、ホーム内外問わず、支援している。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアなどの協力を得ている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で受診できるようにしている、又提携医療機関を受診する場合も情報を得ている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、勤務する看護師、医師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を申し送り用紙等に記入し伝えている。又往診時一緒について話を聞いたり伝えている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と連絡を取り合ったり情報を交換し合い適切な対応方法を聞いたり伝えあっている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や家族を交えて話し合える場を作っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明して確認書を交わし、方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外の研修や検討会を行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練や講習を受けたり、町内会に避難訓練の参加を呼びかけている。	スプリンクラーの設置が完了し、家族や運営推進会議に報告している。また、年2回の避難訓練の実施に地域の人達に参加を呼びかけたり、火災報知器・通報装置等の定期点検も実施している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声かけを行っている。	身体拘束廃止、高齢者虐待防止、接遇マナー等の内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	不適切なケア、スピーチロック、安全管理等すべての職員が共有し、実践するよう取り組み、さらなる向上を検討しているので、その実践に期待します。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを伺って外出したり、やりたいことを行っていました。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気持ちを聞きながら、その方に合わせて過ごしていただいている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んで着て頂いたり、鏡を見ながら整容したり、化粧やパーマをしていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、その食材と一緒に選んだり、一緒に作ったり味付けして頂いています。配膳や片付けも一緒に頂いている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理や食事の準備や味見や盛り付け、後片付け等よく行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記入表が有り、気をつけて見ている、食べられない物等記録している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人声かけし見守りのもと、口腔ケアを行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて声かけやトイレ誘導を行いトイレにての排泄を促している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声かけ・誘導するなど支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や飲水量の確認、個々に適した方法を看護師や医師と相談している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけにて入りたい時間に入って頂いたりお湯の温度を変えたりして個人に合った入浴をしていただいている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をして頂いたり個人に合った布団など、家族や本人と話し合い心地よい眠りについて頂けるよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の説明書等情報を得ている。薬が変わった時等は身体状況の変化に気を付けている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合ったお手伝いをして頂いたり、好きなおやつを買いに行ったり食べに行ったりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>月2回の外出レクや散歩、買い物等その時々に合わせて外出を行っている。</p>	<p>一人ひとりのその日の希望にそって、近隣公園への散歩や買い物、近隣の養護学校や中学校の発表会に出かけたり、小樽での寿司等の外食や雪印資料館見物等普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の買い物に行ったり近くのコンビニ等に出かけている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話のところに椅子を置いてゆっくり話せる様にしている。FAXで手紙が来ることもある。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた飾りや外出時の写真や作品を飾っている、日光はブラインドで調節している。</p>	<p>共用空間には、季節毎の観葉植物の配置や行事参加の写真等が飾られたり、ベンチやソファでひとりになったり、談笑できるスペースが確保され居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの配置で気の合う仲間と話せたりソファでくつろいだり、廊下にベンチを置いて座って頂いている。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と話し合い、使い慣れた家具を持って来て頂いたり、居室に合う物を用意していただいている。</p>	<p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真、仏壇や手作りの作品が飾られる等本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりやエレベーター、玄関外のスロープを設置。居室には写真や名前、本人の好きな人形や飾りをつけている。</p>			

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束を徹底してしないという強い意識は全体にあるもの、安全対策の意識が薄いと感じる。	身体拘束はしないが基本であるが、危険な状態の時は素早い対応で、身体の安全を考える。	全スタッフが現状をしっかりと把握し、安全に対する意識と身体拘束廃止の理解を深められるようホーム内研修やユニット会議でも取り入れていく。	1年
2	10	ケアカンファレンスへの参加ご家族が少なく、電話にて行うも、全てのご家族様が意見や要望を言えてはいないと感じる。	ご家族様が気がついた良いことも悪いことも気兼ねなく話せる関係を築く。	ホームに来られた時は全スタッフが意識して挨拶や声かけを行い、積極的に関わることでホームとの信頼関係を構築していく。	1年
3	26	チーム内の意見が統一されないまま進行していることが見られた。	スタッフが納得し統一したチームケアが行える。	ケアカンファレンスやユニット会議で積極的に意見を言える環境を作り、あいまいにならないように確認していく。	6ヶ月
4	34	急変や事故対応に対する危機感が不足していると感じる。	急変や事故対応にしっかりと備えられる。	起きた事故に対してしっかりと事故検討を行い、同じ事故を起こさないという意識を高めると共に、日常からもスタッフ間で安全を呼びかけあう。	1年
5	36	スタッフによって、否定的と感じる言動が時折見られる。	全スタッフが受容的で思いやりのある声かけができる。	ホーム内研修やユニット会議にて不適切な声かけとはという議題で取り入れていく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401657		
法人名	有限会社DARIYA		
事業所名	愛の家グループホーム札幌星置 2階		
所在地	札幌市手稲区星置3条9丁目8-11		
自己評価作成日	平成23年2月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の穏やかな生活を最優先に、日常をサポートさせていただいています。地域との関わりを目指して、将来的には回覧板へ通信を載せるなど、目指しています。現在はご家族様に向けより開放的なホームを目指し、ホームでの日常を伝えたり、どんなスタッフが勤務しているかを伝えたりしています。クリスマス会や敬老会には沢山の地域の方が参加されます。ホームからも町内会のイベントには積極的に参加させていただいています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401657&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401657&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の3つの理念とホーム独自の理念があり、朝礼で唱和し日々実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加したり、町内会の方にホームの行事に参加してもらったり、地域の人々との交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ認知症予防講座を開催し、理解や支援方法を伝えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さまざまな意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と情報交換を行っている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修などで議題にし、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は情報を共有しながら観察を徹底し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修で学ぶ機会があり、活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、ホームの指針を明確に伝え、不安・疑問点などに対して理解・納得して頂けるよう具体的説明をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満や苦情などの思いが無いかを探り速やかな対応や改善に努め、家族が意見を気軽に言えるような関わりに配慮している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人ひとりの疑問、不安などを明確にしユニット会議で話し合い、改善や質の向上につながるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修で向上を図るための機会があり、資格取得のための支援制度がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な段階に応じた研修が法人内で設けられており、日々体験しながら学び現場で共に考え助言し合っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会などに参加し、他のグループホームとの事例検討を通じ事業所外の意見をケアに活かしサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談に伺ったりホームに来て頂くことによって、ホームの様子を知っていただき、ご本人が考え求めていることや不安を聞く機会を作っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や電話での相談で、ご家族からよく話を伺い、関係を築くように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のニーズを見極め、必要なサービスを受けられるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ること出来ないことを見極め、出来ることを役割として自主的に行える環境を作りケアしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を伝えたりご家族との情報交換を大切に、共に支えあえる信頼関係作りに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに大切にしてきた人間関係を大切に面会に来られた時はゆっくりと話せるよう配慮したり、行事に参加して頂けるよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、できる事でお互いを支えながら生活する場面作りやレクリエーションなど孤立することなく楽しめる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも相談支援に応じることが出来ることを伝え、情報提供を行っている。			
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話、生活の様子を観察したり訪ねながら把握に努めており、意思疎通困難な方は家族など身内の方へ協力していただき情報を得ている。			
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時に家族や本人からアセスメントの聞き取りを行い、生活暦やなじみの生活環境の把握に努めており、不足の場合はその都度伺っている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察・記録・申し送りによって個々の生活リズム・パターンをつかみ、心身状態の変化の把握に努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリング・カンファレンスをチーム全体で行い、ご本人、ご家族の意向を反映した介護計画を作成している。			
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそくした実践と結果、食事や排泄などの状況を個別にファイル記録した連絡ノートを使って情報共有し見直しに活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じて見直しができるよう計画を立てている、予定日以外の通院や緊急時でもご家族様やご本人の状況に応じて対応できるように取り組んでいる。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フロア間の新聞配達や簡単なお使いなど、上下間のユニットを一番近くの地域資源とし積極的に交流を図っている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携病院の往診以外にもご本人ご家族希望の病院やかかりつけ医の受診、必要に応じて専門外来の受診など適切な医療を受けられるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を雇用し週に1度の健康管理を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族と話をする機会を持ち、入院などの際は、介護サマリーや看護サマリーを提供している。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」の説明を行いご家族や医師と話し合い、出来ること、出来ない事の検討をし支援に取り組んでいる。			
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急救命講習を全スタッフが順次受講できるように取り組んでいる。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を繰り返し行うことによって対応の体得が出来るように努めている。			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声かけ、ミーティング、申し送り等声のトーンには注意している。			
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや選択しやすい働きかけなどの工夫を行い自己決定しやすい支援を行っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、レクリエーションなどご本人の希望やペースにあわせた支援を行っている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択をして頂いたりご本人の希望時には理容・美容に出かけたりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味・配色・固さなどに配慮し盛り付け配膳を一緒に行っている。片付けはご利用者様が自主的に協力し合っていたり、片付けを支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量を把握し、一人ひとりに合わせた支援に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた声かけや支援をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、さりげなくトイレへ案内し汚染があっても他の方に気付かれないように片付けを行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動など、身体を動かす機会を設け自然排便できるよう取り組んでいる。下剤などは医師の指示にて適切に行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にあわせたり、タイミングに合わせて、楽しく入浴して頂けるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促しながら、その方に合った休憩時間をとって頂き、生活リズムを整えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別にファイルし、内容の確認を行っている。投薬時はマニュアルに沿って声に出し確認し合い、誤薬防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りをして感謝の気持ちを伝えたり、外出や行事で楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>戸外に出かけることによって季節を感じたり気分転換が出来ることもあり、個別の散歩や買い物など出かける支援をしている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の許可を得て、外出レクや買い物時には好きなものを買ったり、飲み物を買えるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を出すため壁面装飾など五感や季節感を取り入れるように支援している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事時の席のほかにソファやテーブルを置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスやベッドを使ったり、写真や仏壇など馴染みのあるものを置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>何がわかるか、等をスタッフ同士話し合い分かる力を活かせるよう心がけている。</p>		

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束を徹底してしないという強い意識は全体にあるもの、安全対策の意識が薄いと感じる。	身体拘束はしないが基本であるが、危険な状態の時は素早い対応で、身体の安全を考える。	全スタッフが現状をしっかりと把握し、安全に対する意識と身体拘束廃止の理解を深められるようホーム内研修やユニット会議でも取り入れていく。	1年
2	10	ケアカンファレンスへの参加ご家族が少なく、電話にて行うも、全てのご家族様が意見や要望を言えてはいないと感じる。	ご家族様が気がついた良いことも悪いことも気兼ねなく話せる関係を築く。	ホームに来られた時は全スタッフが意識して挨拶や声かけを行い、積極的に関わることでホームとの信頼関係を構築していく。	1年
3	27	日常業務の多忙さから、記録が簡素になっている。	職員間で細かい情報を共有でき、実践や介護計画の見直しに活かすことが出来る。	記録の意義を理解し実践に活かしていけるよう、ユニット会議で具体的に伝えていくようにする。	3ヶ月
4	14	同じ愛の家グループホーム内での交流は多くあるが、手稲区内のグループホームの集まりには業務の都合などから、参加したりしなかったりであった。	近隣のホームとのネットワークを深め、緊急事態の連携や、情報交換を行っていく。	手稲区内のホームの集まりに出来る限り参加し、積極的に交流し、意見を発信していく。	1年
5	34	緊急時の対応を不安に感じているスタッフがいる。	全スタッフが緊急時対応に不安がなくなる。	ホーム内研修やユニット会議内で様々な場面を想定した内容を盛り込み理解を深めていく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。